

変奏曲いろいろ

今回は「変奏曲」の特集としました。その定義は、Wikipedia によれば・・・

<<<「変奏」とは 主題のリズム、拍子、和声などを変えたり、旋律にさまざまな装飾をつけるなどして、変形することである。「変奏曲」とは、一つの主題が様々に変奏され、主題と変奏の一つ一つが秩序を保つように配列された楽曲である。>>> とあります。

更にクラシック関係では、独立した変奏曲は48例あり、作品の一楽章としての適用例は 26とありました。そして、ジャズの曲では殆どがadlib 等による変奏曲形式に該当するでしょう。

今回は、それらの中から四曲を作曲時期/演奏日順に選びご紹介します。

1. GOLDBERG VARIATIONS BWV.988 (邦題:ゴルトベルク変奏曲)

	演奏者 (楽器等)	発行元・発行年	CD 番号等
1	ヘルムート・ヴァルヒャ (hammer chembalo)	EMI music Japan 2008	TOCE-14123 (約7分)
2	グレン・グールド (piano)	FIC inc Japan 1991	ANC -82 (約3分)
3	キース・ジャレット (harpsichord)	ECM 1989/ ポリドール Japan	POCJ-1990 (約4分)

◆作曲者/曲◆ …<< 時間の関係にて、アリア・第一変奏、第二変奏のみとします。>>

J. S. Bach (1685~1750) がライプツィヒ時代の1742年に作曲したクラヴィーア (オルガン以外の鍵盤楽器の総称) 練習曲集全四巻の第四巻からなる曲集の一つ。長い曲にて、最初の「アリア」に続いて、第1変奏から第30変奏まであり、最後に最初の「アリア」を再現して終わる。

◆演奏者◆

◎ヘルムート・ヴァルヒャ (1907~1991) ドイツ・ライプツィヒ生まれ

バッハの鍵盤楽器曲演奏における 20世紀最高の権威とされる。

◎グレン・グールド (1932~1982) カナダ・トロント生まれ

彼の演奏は個性的であり、本曲の演奏例はいくつもあり、ファンは多数。

◎キース・ジャレット (1945~) アメリカ・ペンシルベニア州生まれ

クラシックから入門のピアニスト、マイルス・デイヴィスのバンドに加わる等多彩な活動経験。

2. VARIATIONS ON A THEME BY HAYDN Op.56b

(邦題:ハイドンの主題による変奏曲)

演奏者 (楽器等)	発行元・発行年	CD 番号等
サー チャールス・マッケラス 指揮 スコットランド室内オーケストラ	TELARC 1997	CD-80464 #5~#14 (17:14)

◆作曲者/曲◆ Johannes Bahms <ヨハネス・ブラームス> (1833~1897) は、ドイツ音楽の三大Bとも称され、ロマン派とされるが古典主義的な形式美を尊重する傾向も。先に「2台のピアノ」版 (op.56b) が、次に管弦楽版 (op.56a) が1873年に作られた。その主題は古くからある賛美歌の旋律を引用したもので、ハイドンの作ではないと考えられているが、一般には「ハイドン変奏曲」と呼ばれている。 …<< 時間の関係から、第5変奏までとします。>>

変奏曲いろいろ

◆交響楽団◆ 1974年設立、スコットランド・エディンバラの室内オーケストラ。

◆指揮者◆ 1925年 U.S.A. 生まれ、1946年 渡英しヨーロッパ各地の著名オーケストラにて指揮、音楽監督等、ナイト称号を受けBBC 交響楽団の首席客員指揮者を務める。2010年没。

3. SYMPHONIC VARIATIONS Op.11 (邦題:交響的変奏曲)

演奏者 (楽器等)	発行元・発行年	CD 番号等
ランソワーズ・ジョエル・ティオリア (piano)、 アルンヘム・フィルハーモニック・オーケストラ、ロベルト・ベンツィ指揮	HNH International Ltd. 2002	NAXOS 8553472 #1 (14:53)

◆作曲者/曲◆ César Franck <セザール・フランク> (1822~1890) はネーデルランド連合王国生まれ。パリ音楽院にてピアノ・オルガンを学び、教会オルガニストの傍ら作曲を手がけ、1872年にパリ音楽院の教授に迎えられた。曲名には交響的とあるが、ピアノと管弦楽のための変奏曲にて、主題提示および第1~第5変奏の構成、1885年に作曲された。

◆交響楽団◆ オーケストラ名の原語は Arnhem にて、アーネムとの訳例もある。

◆指揮者等◆ 1937年マルセイユ生まれ、各地で活躍、ピアノ独奏者の情報は得られず。

4. MY FAVORITE THINGS (邦題:私のお気に入り) …アルバム名も同じ

演奏者 (楽器等)	発行元・発行年	CD 番号等
ジョン・コルトレーン (soprano/tenor sax)、 マッコイ・タイナー (p)、スティーブ・デイヴィス (b)、エルヴィン・ジョーンズ (ds) Oct. 1960	Warner-pioneer corp. Japan 2002u.s.a.	30DX-1000 #1 (13:41)

◆作曲者◆ Richard Rogers <リチャード・ロジャース> (1892~1979) は1902年ニューヨーク出身。作詞家のロレンツ・ハートと出会い、~'42年までに「マイ・ファニー・ヴァレンタイン」、「ブルー・ムーン」など多くのスタンダード・ナンバーを生む。その後オスカー・ハマースタイン二世と「サウンド・オブ・ミュージック」など多くの名作ミュージカルを作曲した中の一つ、作曲は1959年。

◆曲◆ ミュージカル「サウンド・オブ・ミュージック」のうちの1曲。Wikipediaによれば、内外のミュージシャンによるカバーでは62例あり、そのなかでは器楽系のジャズ・ミュージシャンが1/4を占め、モダン・ジャズでは、ウェス・モンゴメリー (g)、ケニー・バレル (g)、ビル・エバンス (p) 等の名が連なる。

◆演奏者◆ J・コルトレーン (sop-sax)、1926年に U.S.A. ノースカロライナ州生まれ。1950年代のハード・バップ時代から、1950年代のモード・ジャズ、更にフリー・ジャズの時代にわたり、大きな足跡を残した。活動時期は20年程であったが、アルバム換算にて200枚を超える多数の録音を残した。1967年没。

以上